

# 河川再生に向けた国際的な産学官民ネットワークの構築

佐合純造※1 沼田彩友美※1 後藤勝洋※1 伊藤一正※2 和田彰※2

※1 (財)リバーフロント整備センター ※2 (株)建設技術研究所

## 1. ネットワークの設立背景

### 設立の経緯

2006年3月 「第4回世界水フォーラム」(メキシコ)  
 ・アジアの河川環境再生を目的とした分科会の開催  
 ・日本、韓国、中国が中心

2006年11月 ネットワークの設立

ARRN (アジア河川流域・再生ネットワーク)  
 JRRN (日本河川流域・再生ネットワーク)

〈分科会における提言(第4回世界水フォーラム)〉

- 1) 河川環境の再生は、治水や利水と同じく、人類の存続に不可欠。
- 2) 河川環境管理に際しては流域を基本単位で考える。
- 3) アジアに相応しい河川環境再生の方法論を確立することが必要。
- 4) アジアの歴史・文化的土壌として人間活動と自然との調和がある。
- 5) 河川再生に関する優れた事例や専門情報を、実務者・研究者・生態学者・管理者・市民で共有する仕組みが不可欠。
- 6) 類似した自然・社会環境を持つアジアとして、河川再生の技術指針を共有することが緊急の課題。

### ARRNの目的

① アジア地域をはじめ世界各国の河川・水辺の再生に関する事例・情報・技術・経験などを、技術者・研究者・生態学者・行政担当者、そして市民で交換・共有する仕組みを構築する。

② アジアモンスーン地域で利用できる『河川再生ガイドライン』を構築し、ネットワーク参加者の知識・技術の向上を図る。



### ARRNメンバー (2010年5月現在)

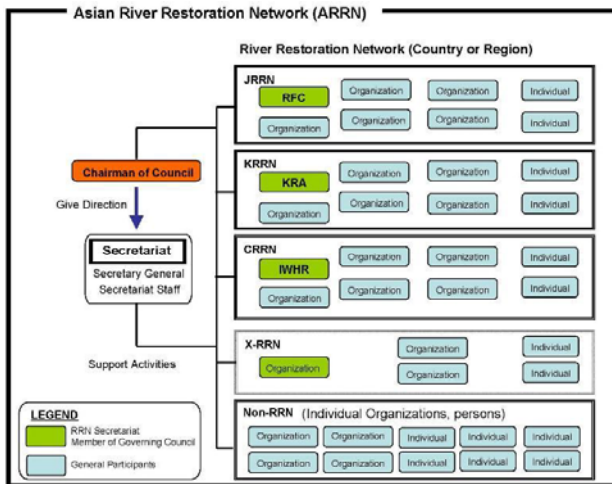
日本河川流域・再生ネットワーク (JRRN)  
 【事務局】(財)リバーフロント整備センター  
 【会員】個人:434人、団体:18組織  
<http://www.a-rr.net/jp/>

韓国河川流域・再生ネットワーク (KRRN)  
 【事務局】韓国河川協会 (KRA)  
 【会員】韓国建設技術研究院 (KICT)

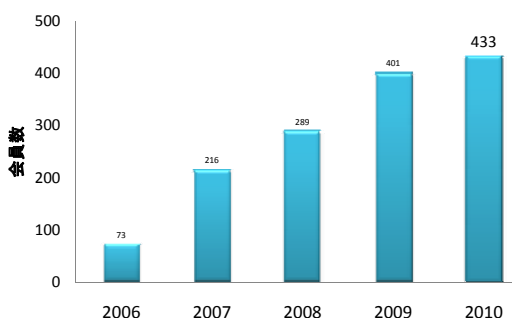
中国河川流域・再生ネットワーク (CRRN)  
 【事務局】中国水利水電科学研究院 (IWHR)  
 【会員】国家水電可持続発展研究中心  
 水利部中国科学院水工程生態研究所  
<http://www.cnrrc.cn/>

NON-RRNメンバー  
 タイ国天然資源環境省水資源局  
 パキスタン国連邦水委員会

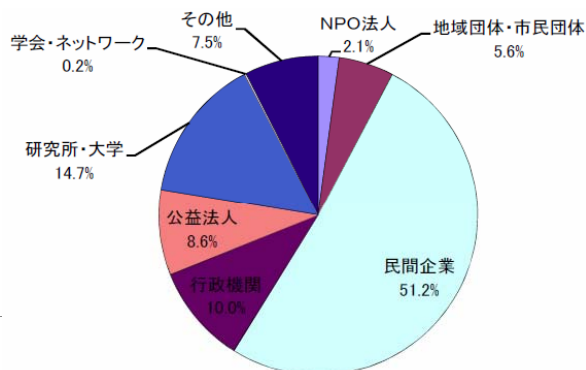
## 2. ネットワークの組織構造



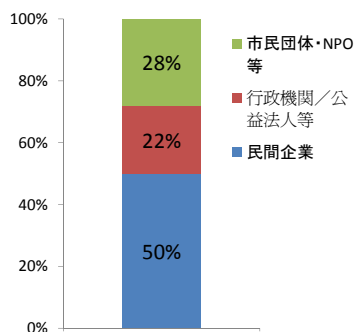
RRN: 国・地域内のローカルネットワーク  
 NON-RRN: 個別組織会員



〈JRRN個人会員の推移〉



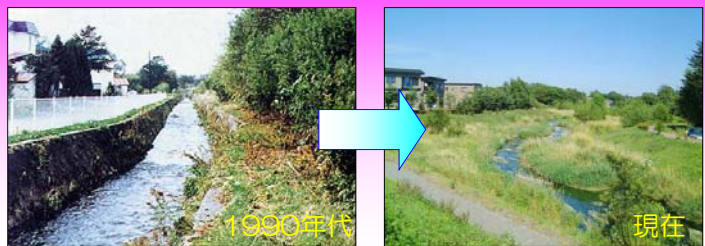
〈JRRN個人会員の所属組織〉



〈JRRN団体会員の内訳〉

### 3. ARR (JRR) の主な活動内容

#### 国内外の河川環境再生事例の収集・整理・分析



1980年代  
現在  
茂漁川（北海道）の河川環境再生

写真出典：荒関岩雄



1990年代  
現在  
良才川（韓国）の河川環境再生

写真出典：KICT

河川環境再生に関する事例、課題、技術、考え方等を集約



「アジアの河川環境再生技術指針」の入門編として、河川環境再生を考える際の基本となる考え方や具体方策のメニューを、河川環境改善に関心を持つ非専門家向けにわかりやすく解説

「アジアに適應した河川環境再生の手引き」の作成



#### 国際・国内フォーラム



ARRN国際フォーラム  
(年1回)



JRRN河川環境ミニ  
講座 (年3回)

#### ARRN運営会議

日中韓のネットワーク事務局による運営会議 (年1回)

#### 国際会議、学会等への参加、国内外関係機関との交流活動



世界都市水フォーラム  
2009.8 韓国  
国際会議での研究発表



海外視察団の受け入れ・技術支援

#### ARRN (JRR) ホームページ



ARRN活動報告



ARRNホームページ



CRRNホームページ

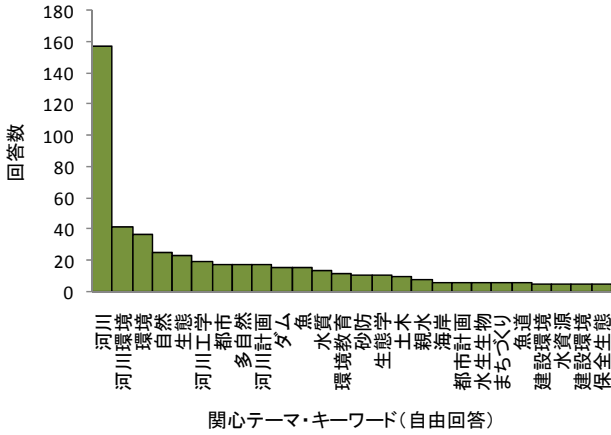


JRRNホームページ

- ・アジアの河川環境再生に関わる情報のポータルサイトの役割を担うことを目標として運営。
- ・ARRNの活動報告や技術情報（リンク）等を発

# 4. 河川再生に取組む活動主体のニーズ

## 関心テーマ



＜回答数4件以下の関心テーマの例＞  
 植物、下水、利水、ピオトーフ、防災、湖沼、地質、河川改修、水循環、環境保全、水理学、舟運、環境整備、都市再生、砂防設計、地域計画、景観計画、水文化、底生動物、環境学習、近自然、道路、衛生工学、水政策、工事施工、ダム設計、生物調査、自然科学、河川浄化、農村環境、環境経済、気象学、底生生物、水生昆虫、海洋地質、流域連携、伝統文化、災害環境、地球温暖化、市民活動、ISO、土木構造、流量変動、汽水域、総合土砂管理、政策評価

※情報源：JRRN個人会員に対する入会時調査

## 活動主体別のニーズ

セクター	ニーズ
民間企業 (産)	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内外関連分野のホットニュース</li> <li>専門技術や人材に関する情報</li> <li>関連組織の得意分野、保有技術等</li> <li>再生事例情報 (事業名、技術、制度等)</li> <li>地域の水辺への社会貢献活動の手法</li> </ul>
研究機関 (学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>最新研究事情 (テーマ、研究者、研究機関)</li> <li>研究資金 (研究補助金、助成金等)</li> <li>研究成果のPRの場</li> </ul>
行政機関 公益法人 (官)	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内外の先進的再生事例、施策、制度等</li> <li>国内外の専門分野の人材・組織情報</li> <li>事業PRの場及び効果的PR手法に関する情報</li> <li>事業 (政策) に対する世論把握</li> </ul>
市民団体 NPO (民)	<ul style="list-style-type: none"> <li>良好な水辺環境の具体イメージや関連知識</li> <li>市民が主体的に関与した成功事例、仕組み</li> <li>河川再生の技術、知識、法制度の解説</li> <li>自ら参加したい活動等の情報</li> <li>協働する組織、人材情報</li> <li>活動資金 (助成金に関する情報)</li> </ul>

# 5. 今後のネットワークの活動展開

### ＜ステップI＞ 情報・人材の交流基盤整備

テーマに関連する情報や知識、及びその供給源を整備 (＝情報・活動参加者・共有できる仕組み)

### ＜ステップII＞ 組織固有の知的財産の蓄積

上記Iに付加価値をつけた専門的な情報・技術・知見を蓄積 (ガイドライン等のオリジナル知財)

### ＜ステップIII＞ 安定と信頼ある組織基盤確立

組織力の強化 (収益性・継続性・マネジメント体制)

### ＜ステップIV＞ 政策提言能力の保有

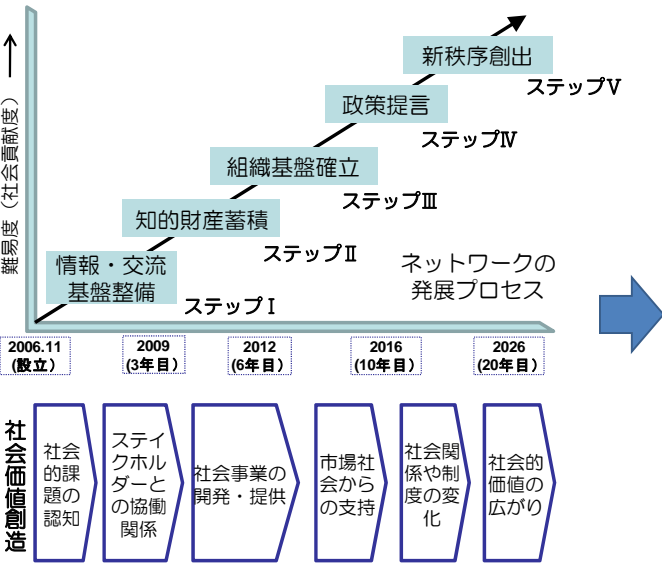
政策提言集団へ発展 (様々な活動主体に提言できる信用を備える)

### ＜ステップV＞ 新規社会価値創造集団への成長

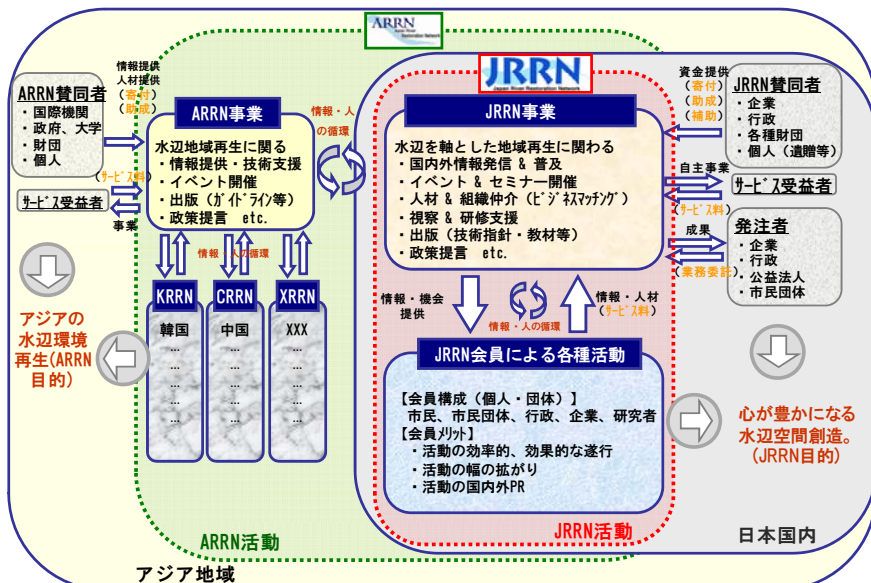
新たな制度や法令、秩序を生み出す組織体へ発展

## ネットワークの活動目標 (克服すべき課題)

- 類似組織との差異 (オリジナリティ) を明確化。
- 国内及び世界的な動向と合致する活動テーマ設定と活動展開。
- 段階的発展目標を明確に設定し、ネットワーク参加者で共有。
- 河川再生に関わる情報・技術の蓄積及びそれらがスムーズに社会に循環する仕組みの継続的改善。
- アジア版河川再生ガイドライン等のオリジナル素材を整備・普及。
- 信用と信頼を基本に会員交流機会を増やしパートナーシップ構築。
- 会員向けサービスの差別化を図り、会員がネットワーク活動にメリットを感じ主体的に参加できる仕組み構築。
- 多様な活動を行いながらも全ての活動を統合化。



※第5回世界水フォーラム (2009年3月・トルコ開催) 「越境の水管理・河川管理に関する特別セッション」におけるヨーロッパ河川再生センター (ECRR) 講演内容より作成



## 目標とするネットワーク発展過程

## 理想的なネットワーク活動イメージ